

脳脊髄液減少症

医者には常識と思われようなことで、も、一般の人に理解してもらおうのに苦労するところがある。いや、びびらないこともある。

1年くらい前から、軽い認知症で通院中のM子さん。78歳。今日の付き添いは、いつもと違って息子さんだ。40歳台だろう。いきなり、「母親は、起き上がる時に頭が痛くなるという。ネットで調べると、脳脊髄液減少症みたいだ。検査できる病院へ紹介状を書いてくれ」と言うのではないか。

脳脊髄液減少症は、何らかの原因で脳や脊髄を浮かせている脳脊髄液（髄液）が少なくなるために起きる。髄液が少なくなる、と、その浮力が落ちる。立ったり、座ったりする、と、脳や脊髄、それにつながる神経や血管も下の方に動いたり引っ張られたりする。そのため、頭痛だけではなく、頸部痛やめまいなども加わる。慢性期には、全身倦怠感に疲れやすさ、自律神経症状や高次脳機能異常など色んな症状が出て生活に支障を来したりする。

だが、頭痛があるとすれば、起立性頭痛と呼ばれるものである。立ったし座ったししているうちに、だんだん頭が痛くなる。

つらいので横になると、少しずつ痛みが消えていくというものだ。Mさんの頭痛は、頭を動かしたりするときに起きる神経痛の一種で、頸椎の変形が原因だ。横になっても痛みはなくなりに。また、脳脊髄液減少症と違って、十分に鎮痛剤の効果がある。

と、とれだけ違いを説明しても、息子さんは頑として自説を変えようとしないのである。結局は、後輩のいる病院へ紹介状を書かされる羽目になった。

「脳脊髄液減少症ではありません」という素っ気ない返書に、後輩の困惑といら立ちが読み取れる。いや、これは、Mさんの息子さんが悪いのでない。ネットのせいかもしれない。という話は次回にでも。

（石黒修三＝いしぐろクリニック・脳神経